

頸城 乙妻山・五地蔵山

矢野

【日時】 2008年2月2日(土)～2月3日(日)

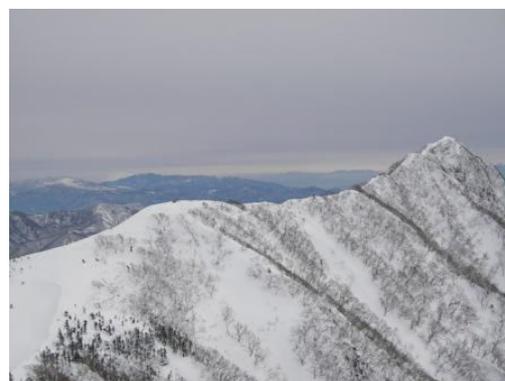
【メンバー】L矢野 棚橋 佐貫 中村

山スキーを愛する人々が戸隠に集う。それを聞いただけで胸躍り、早々に参加を表明した。実際に参加して感じたことは、皆情熱的、大胆でいて慎重。本当に色々と学ばせていただいた山行となりました。

2月2日(土)：トマPとわらじの仲間の方2名で2297Pを目指して行動を開始。既にトレースが付いており、2297Pへの尾根取付まで楽をさせてもらう。そこから先頭のロック&ブッシュPの皆様に感謝を表明し、代わってラッセル開始。暫くして休憩に入ると、シーハイルPが追いつき、先頭を譲る。とにかく早い。直下では斜度が増し、各人弱層テストを繰り返す。状態は良くない。さあどうするかと討議をし、結果、距離をおいて登ることとした。2297Pにわらわらと人が集まり、各Pごとに滑降を開始する。遠目では誰が誰だがわからないものの、とにかく皆楽しそうだ。躍動している。それもそのはず、乙妻山北東斜面は抜群の深雪で、ふわふわと空を飛んでいるかのようだった……。その夜、更に多くの名だたる熱烈スキーヤーが集った。それぞれの希少な経験と今後の希望をお酒の肴に、話は尽きることはなかった。



2月3日(日)：雪降る朝、飲みすぎと睡眠不足で大半がよれよれしているような状況だが、登るとなれば行動は早い。そそくさと準備を済ませてキャンプ場へ。大半が五地蔵山に行くこととなり、ガイド山行であるかのように大隊列を組んで登る。登り難い細い尾根を強引なターンを多用して登り、稜線へ。山頂直下は斜度が増し、雪の状態は良くなかったものの、特に問題もなく山頂に集結した。



山頂からは総Lが各PLを集めて作戦会議。各Pごとにまとまって、間隔を空けて降りることとした。先頭わらじの仲間Pに続いてトマP下降開始。振り返ると華麗な滑りを見せる総L。但し斜面の雪はばさばさ切れ落ちるため、一つ一つ慎重である。我々は登った尾根のトップまで戻ったが、待てど暮らせど後続が来ないため、あきらめて登った尾根の東側の沢を下降開始する。ここも深雪。駐車場まで一気にいき、片付けているところからともなく後続隊が現れた。

【行程】 2/2 大橋(7:50)～佐渡山鞍部(9:10)～2297P(13:00)～大橋(16:25)

2/3 キャンプ場(7:45)～尾根取付(9:15)～山頂(13:00)～キャンプ場(15:10)

【地図】 高妻山